



編集・発行 北海道立生涯学習推進センター

〒060-0002 札幌市中央区北 2 条西 7 丁目 かでる 2・7 8 階 電話 011-204-5781 FAX 011-261-7431

E-mail: shougai.12@manabi.pref.hokkaido.jp ホームページアドレス <https://manabi.pref.hokkaido.jp/>

当センターは、本道における生涯学習振興の拠点施設として、市町村や高等教育機関及び産業界等と連携を図りながら、「調査・研究」、「指導者の養成・研修」、「学習情報の提供・相談」などの取組を通して、道民の様々な学習活動が豊かに展開されるよう支援しており、年 6 回発行の「研修会だより」において、取組を紹介しています。

本号では、北海道社会教育主事会協議会が主催し、当センターが後援しているブロック研修会を紹介しています。ブロック研は、全道の社会教育主事等が、北海道社会教育セミナー（6 月）、生涯学習活動実践交流セミナー（2 月）と併せて、同じテーマで研修を深める場です。今年度は、北海道胆振東部地震の影響で道南ブロック研・道央ブロック研が中止となりましたので、道東ブロック研・道北ブロック研について紹介します。

平成 30 年度 道東ブロック社会教育主事等研修会

テーマ：「地方創生の時代における社会教育行政の在り方」～「学び」と「活動」の循環を促す方策について～

日 時：9 月 20 日（木）13:00～17:00、9 月 21 日（金）9:30～11:30

内 容：事例発表・分科会、講演会

事例発表

①失敗事例から学ぶ社会教育事業

○チャレンジクラブの取組 清水町 野々村麻希 氏

○子ども会育成連絡協議会 中札内村 明上幸太 氏

○大樹町女性団体連絡協議会の育成 大樹町 大田 翼 氏

それぞれの事例では、団体の活動が停滞するなど上手くいかない時期があり、担当者が様々なアプローチを行い活性化させたことが紹介されました。



②ふるさと講座の取組から 湧別町 杉森伸一 氏

行政主導ではじめて講座を団体主導へと導いていくために、信頼関係が大切だと紹介されました。

③中高生を活用したまちづくり 標茶町 浅野梨菜 氏

高校生スタッフを入れた事業で、参加者が増え、参加者とスタッフの親密感が増したことが紹介されました。

④ふるさと体験教室 羅臼町 川村涼輔 氏

事業が長年続けられる中で、スタッフとして参加した方の学びの場にもなってきた事が紹介されました。

講評：北海道立生涯学習推進センター主査 田中尚史

事例発表からは、団体の活動や事業推進の転機に社会教育主事からの効果的なアプローチが行われ、再び活動が活発化したことに改めて社会教育主事の重要性を感じたことをお伝えすると共に北海道社会教育主事協議会と北海道生涯学習推進センターで進めている研究について、参加者が実践したアプローチの実践結果を報告していただきたいことをお願いしました。

講演：「アイヌ文化と北海道命名 150 周年」 小助川勝義 氏

幕別町の資料館ふるさと館で、ボランティアスタッフとして町の社会教育の推進に力を尽くした講師が町の無形文化財のムックリ奏者安東ウメ子さんとの出会い、CD 作成などアイヌ文化の伝承活動に力を注いだことなどが紹介され、この経験をもとに一市民が社会教育に関わるることについて話をいただきました。



自主研修団体受入・推進センター職員の派遣について

生涯学習推進センターでは、生涯学習・社会教育に関する研修会等を主催する団体からの要請に基づき研修の受入、職員の派遣をしています。詳細は、生涯学習推進センターまでお問い合わせください。

自主研修受入		推進センター職員派遣
生涯学習推進センター (札幌市かでの 2・7 内)	会場	主催者が用意した会場
無料	費用	交通費をご用意ください

活用例：社会教育委員の研修会、社会教育中期計画策定委員会、社会教育担当者会議



平成 30 年度 道北ブロック社会教育主事等研修会

テーマ：「地方創生の時代における社会教育行政の在り方」～「学び」と「活動」の循環を促す方策について～

日 時：9月 27 日（木）13:00～17:00、9月 28 日（金）9:30～11:30

内 容：テーマ説明、パネルディスカッション、コミュニケーションワークショップ、事例発表、演習

全道テーマ説明 北海道立生涯学習推進センター主査 田中尚史

道主事会協議会とセンターは協働で「学び」と「活動」の循環を促すための行政から地域住民や団体への効果的なアプローチについて研究していること、北海道社会教育セミナーで参加者が考えたアプローチを実際に実践した結果を集め、研究のまとめとして、市町村の若手職員が業務を推進する上で参考となるようなアプローチ集を作りたいと説明しました。

本研修会について説明 上川管内社会教育主事会事務局長 奥田俊二 氏

地域で活躍する青年の想いやニーズをとらえ、彼らがどのような行政からのアプローチを望んでいるかを把握、理解するためにパネルディスカッションを実施すること、コミュニケーションワークショップでは、社会教育主事に必要な力の1つ、コミュニケーション力の向上を目指していること、事例発表、演習では参加者が実践したアプローチを交流することで、社会教育行政の在り方を検討していくことが紹介されました。

パネルディスカッション

「地域の若者によるマチづくりの実践例から学ぶ」

What's Some Mosh!!

当麻町青年会議
富良野デザイン会議暮しステーション
コーディネーター

和寒町 佐藤大樹 氏
当麻町 高田裕斗 氏
富良野市 浦田芳穂 氏
宗谷教育局 佐々木憲一

佐藤氏からは、一般に青年層は個で活動する世代であること、楽しくなければやらない世代であるという認識が紹介され、行政からは「大変だけどやりたい」と参加者が感じるような支援がほしいと意見がありました。高田氏からは、当麻町青年会議では、代表が1人1人の役割を明確にしたことと、来られない人を責めないというルールを作ったので、人が集まらないという悩みはないと、団体の状況が紹介され、行政からの支援（補助金等）をお願いしたいと話がありました。浦田氏からは、事業を進めていく中で、行政の支援もあり次々と新しい出会いがあり、その中から参画してくれる人が現れたという団体の事業拡大の様子が説明されました。コーディネーターから、地域に皆さんのような担い手が生まれるためには何が大切かと問われると、佐藤氏は「楽しさ」、高田氏は、事業の実施や企画を「任せる」こと、浦田氏からは、人が自然と集まるような「居場所」が大切であると意見が述べられました。

コミュニケーションワークショップ「社会教育関係職員に必要なコミュニケーションスキルを身に付ける」

講師 富良野演劇工場工場長 太田竜介 氏

太田氏から、演劇の世界では初対面の役者が短い時間でコミュニケーションをとり親子や夫婦を演じていかななくてはならず、コミュニケーションスキルは不可欠であると話を伺いました。その後、役者も取り組んでいるという「アイコンタクト」等のワークを参加者全員で体験しました。

事例発表「各管内主事会の実践事例から学ぶ 地域へのアプローチについて」

宗谷ジュニアリーダーの取組

枝幸町 齊藤 巧 氏

音楽を通じたマチづくり

留萌市 土田健人 氏

上川ほくほくMAP

名寄市 秋山裕樹 氏



演習「住民・若者が盛り上がる仕組みづくり」上川教育局小島紀行

地域課題を共有し、地域住民や若者が盛り上がる取組について具現化することを目的に5つのグループに分かれ演習を行いました。はじめに、グループでアプローチの実践報告書を紹介しながら自己紹介が行われました。次にマンドラチャートを用い「まちづくりへの若者のニーズ」と、それに応えるための「行政のアプローチ」について検討しました。



研修事業のご案内

地域生涯学習活動実践交流セミナー (札幌市)	2月14日(木) ～15日(金) (2日間)	200名	市町村社会教育主事等、地域づくりに関心のある住民及び団体職員	北海道社会教育セミナーにおいて検討したアプローチについて、実践した結果を交流します。 【内容】・事例発表・研究協議・講演
---------------------------	------------------------------	------	--------------------------------	---